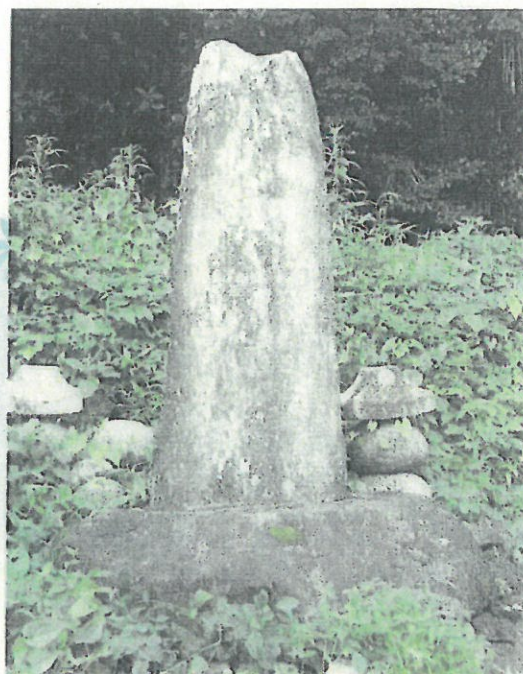


# 南海地震を知る 徳島県の地震

## 津波碑



徳島県  
【監修】  
徳島大学環境防災研究センター

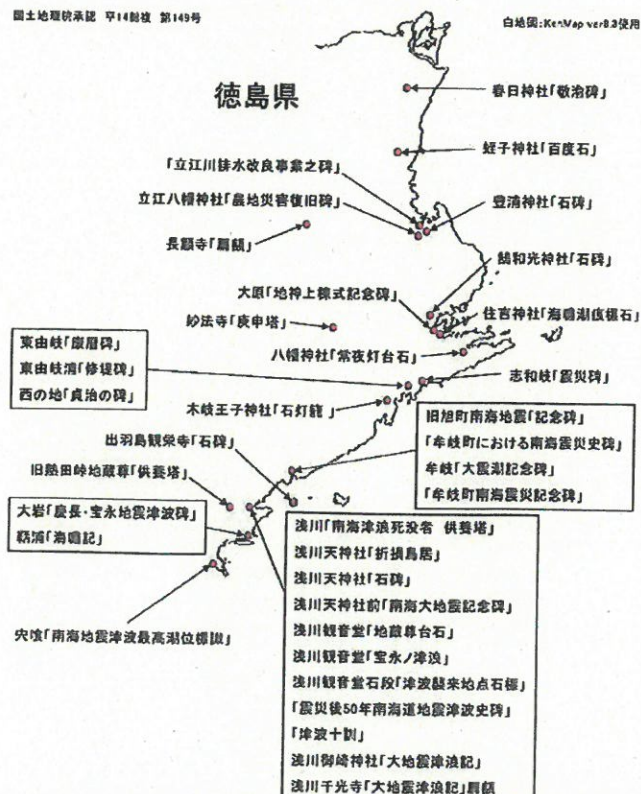


日本最古の津波碑：1364年正平南海地震津波の供養碑「廣磨碑」  
徳島県海部郡美波町東由岐

## 徳島県の地震・津波碑の位置

国土地理院承認 平14製図 第149号

白地図:KenMap ver.8.3使用



## 春日神社「敬諭碑」

(1854年安政南海地震)

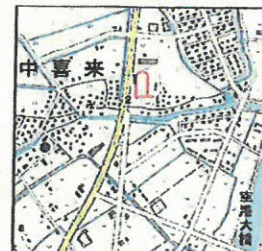
所在地 板野郡松茂町中喜来字牛飼野西ノ越30 春日神社境内  
建 立 安政3年(1856)



敬諭碑



中喜来春日神社



板野郡松茂町の国道11号沿いの春日神社境内に、敬諭碑は建っています。「敬諭」には「災をおろそかにしない」という意味があり、安政南海地震(1854.12.24)の様子が漢字で刻まれています。「山は鳴り大地が揺れ、寺社や人家が多く倒れ、水が噴き出し(液状化現象)、火災も発生、津波により田や桑畑は海のようになった。恐ろしくあの世に陥るくらい惨状である。さらに、厳しい寒さが骨身に沁み、寝具、食糧も無くて耐えていた。地震の翌日には、人々は疲れて、流石を流す者もいたが、被災者のために炊き出しを施す人もいた。余震は翌年になっても続いた。」などと刻まれています。

**教訓** 海岸近くに住む人は、南海地震が起きたら、地震の大きな揺れ、それに伴う液状化現象や火災の被害ばかりでなく、津波被害にも注意が必要です。このような悲惨な状況の中でも、共に助け合う互助の精神は今でも大切です。

# 蛭子神社「百廢石」

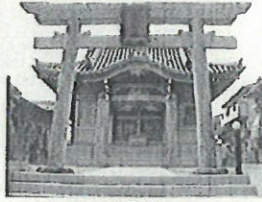
(1854年安政南海地震)

所在地 徳島市南沖洲1-2 蛭子神社境内

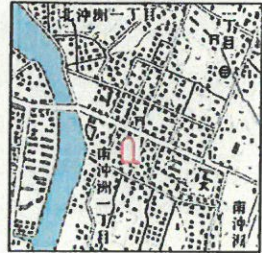
建立 文久元年(1861)9月 移転 平成15年(2003)3月3日



百廢石



蛭子神社



徳島市南沖洲の新しい蛭子神社境内に移転された百廢石に、安政南海地震(1854.12.24)の様子が刻まれています。砂岩の劣化が激しく、現在では4面のうち2面は剥落しています。「大地震に驚いた人々は、竹藪に逃げ込んだ。津波が来ると騒いで、驚いて船で逃げようとして船が転覆し、命を失った人がいた。津波の際には絶対に船に乗ってはいけない。また、家が倒壊し炬燵(にたつ)や竈(かまど)からの出火することも多かったので、そのような時には、冷静になって火を消すことも肝心である。百年が経つ頃にはこのような大地震が起きるので気を付けよ。」などと刻まれています。

**教訓** 南海地震はおおよそ100年周期で繰り返し起きています。大地震が起きた時には、冷静に火を消すこと。また、津波の際には、絶対に船に乗って避難してはいけません。

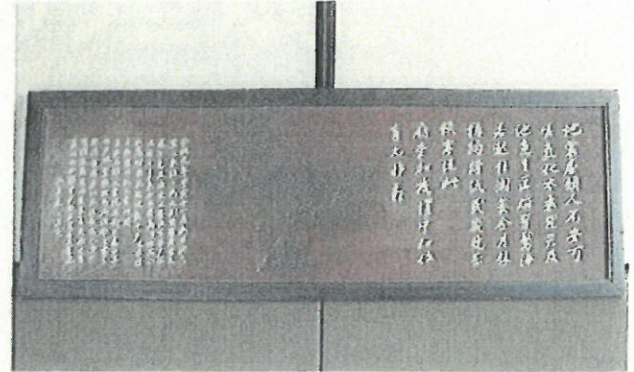
# L-3

# 長願寺「扁額」

(1854年安政南海地震)

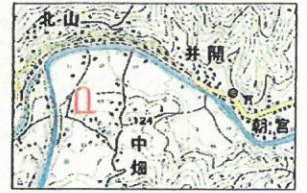
所在地 名東郡佐那河内村上字久保井101 長願寺

奉納 不詳



扁額

佐那河内村から神山町に抜ける新しいバイパスの近くに、新築なった長願寺があります。ここには、蜂須賀家の家老賀島家の大書院に使われていた戸板で作られた「扁額」に、安政南海地震(1854.12.24)の様子が記されています。それには、後世の人が忘れないように、「大地震で多くの家屋が倒壊、津波により海辺の家屋が流出、徳島城下や小松島では大震災が発生し、数千戸の家屋が焼失した。」などと記されています。



**教訓** 安政南海地震で、徳島県下で死者が最も多かったのは徳島市です。当時の徳島城周辺は人口が多く、家屋も集中しており、地震後に各所で発生した大震災により、死者73名、負傷者131名を出しています。家屋が密集している地域では、地震時に火災への備えをおろそかにしてはなりません。

# L-4

# 「立江川排水改良事業之碑」

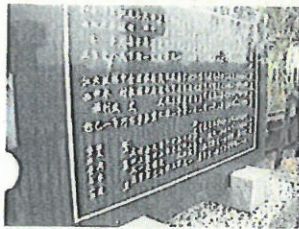
(1946年昭和南海地震)

所在地 小松島市赤石町3番 立江川排水機場敷地内

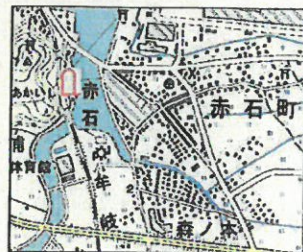
建立 昭和53年(1978)6月吉日



前面



背面



小松島市赤石町の阿波赤石駅隣の立江川排水機場敷地内に、昭和南海地震(1946.12.21)により地盤沈下が起き、そのために生じた塩水や雨水の冠水被害対策として行われた排水改良事業の碑が建てられています。

**教訓** 地震時の地盤沈下による大規模な農地排水被害対策には、排水機、樋門、排水路の整備等のハード対策も必要です。

# 立江八幡神社「農地災害復旧碑」

(1946年昭和南海地震)

所在地 小松島市立江町新開18 八幡神社境内

建立 昭和42年(1967)2月



農地災害復旧碑

小松島市立江町新開の八幡神社境内に、昭和南海地震(1946.12.21)後の農地災害復旧事業を後世に伝える「農地災害復旧碑」があります。「大地震に起因する地盤沈下により立江町の水田40町歩が、悪水の滞留のため不毛の地と化した。災害後、農地改良復旧事業として昭和27年3月に着工、総工費3,300万円の巨費を投じて昭和31年3月に竣工した。」などと刻まれています。

**教訓** 南海地震の発生により、地盤沈下が起き、冠水した水が長期間滞留、悪臭などに被害が出る場合があります。排水設備の整備も必要となります。



# 豊満神社「石碑」

(1854年安政南海地震)

所在地 小松島市赤石町97 豊満神社境内  
 建立 不詳



石碑

小松島市赤石町にある豊満神社南入口の鳥居の右に、青石に遼筆な文字で刻まれた安政南海地震(1854.12.24)の碑が建っています。「この地震による津波により、徳島県下でも多くの死者を出したが、豊満近郊の村人は、小高いこの神社の庭に避難し、難を逃れたのは白楽天のおかげ。」と刻まれています。この神社の祭神の白楽天は、地元では、「はくろくさん」と呼ばれています。また、この地震時に白い鹿「白鹿(はくろく)」が現れ住民をこの境内に導き住民を助けたという言い伝えも残っています。



豊満神社の位置・津波碑 P14

**教訓** この神社は今では高所とは言えませんが、津波来襲の恐れが少しでもある時は、一刻も早く近くの高い所へ避難することが大切です。

# L-5

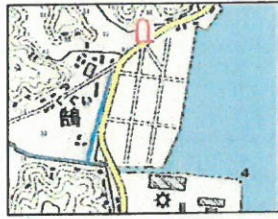
# 鶴和光神社「石碑」

(1946年昭和南海地震、1960年千川地震津波)

所在地 阿南市橋町青木 和光神社段脇  
 建立 平成4年(1992)10月10日

阿南市橋町青木にある和光神社の階段脇に、高さ3m余りの「津波碑」が平成4年に建てられました。この碑には、「鶴地区ではおよそ100年毎に襲われた過去の地震津波の歴史が示され、平常時にそのことを心に留めるよう」刻めています。この碑には1946(昭和21)年の南海地震津波と1960(昭和35)年の千川地震津波の浸水高が刻まれ、住民が常にその高さを実感できるようにになっています。

**教訓** Y字型湾の湾奥部では、津波エネルギーが集中、大津波に襲われる危険性が高く、鶴地区でも1946年(昭和21)年の南海地震津波でも大被害を受けています。また、南海地震のような近距離津波ばかりでなく、17,000kmも離れた千川沖で発生した遠距離津波でも被害の恐れがあることも知っておく必要があります。



1946年 昭和南海地震津波水位

1960年 千川地震津波水位



和光神社



石碑

# 大原「地神上様式記念碑」

(1946年昭和南海地震)

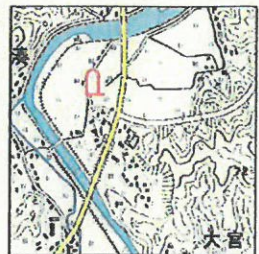
所在地 阿南市福井町大原116-1 大原集会所西  
 建立 昭和23年(1948)12月21日



地神上様式記念碑



震災碑



大原

阿南市福井町大原の国道55号線近くの大原集会所西に、昭和南海地震(1946.12.21)からちょうど2周年目に建てられ、当時の被害の様子を記した「地神上様式記念碑」があります。そこには、「南海地震発生とともに大津波が福井村を襲い、海岸地の一帯が死海になった。大原平野の田畑は砂礫で覆われてしまった。」などと刻まれています。

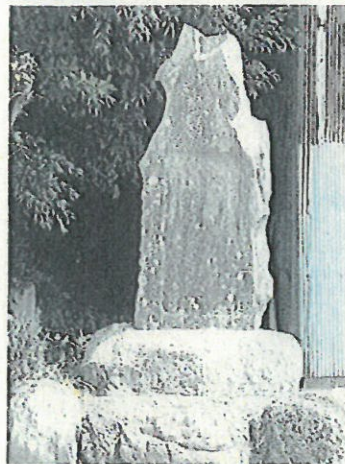
**教訓** 津波に襲われた田畑は、塩害を受けるばかりでなく、砂礫の堆積により長期間使用不可能となり、農産への被害は甚大です。また、沿岸地の堤防や川川は堤防上も食害で多様な生態系が育まれている場でもあり、環境保全面からも大津波による被害防止対策を急ぐことが必要です。

# L-6

# 住吉神社「海嘯潮痕標石」

(1946年昭和南海地震)

所在地 阿南市福井町浜田162 住吉神社段脇  
 建立 不詳



海嘯潮痕標石



住吉神社



福井町 後戸

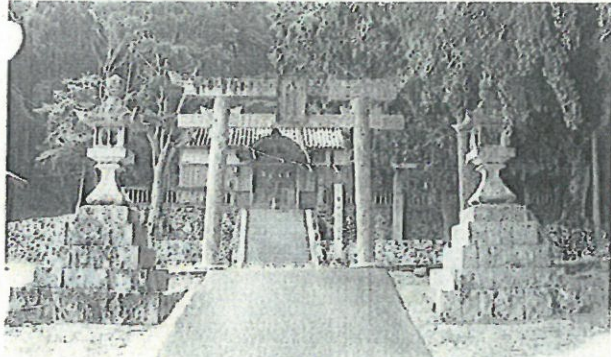
阿南市福井町浜田(旧後戸)の住吉神社の階段脇に、「海嘯潮痕標石」が建っています。そこには、「昭和21年(1946)12月21日の夜明けに大地震。大巨響と共に津波が来襲、最初の波は、住吉神社の石段第6段目まで、一旦過ぎ、間もなく再来、2番目の波は10段目まで。この大津波により、大戸、後戸、赤崎、大原、旗、大西、吉津、大宮、山下、宮宅まで死海となった。津波は約半時間後に退いた。負傷者3名、家屋13棟、船10艘および家畜を流失、床上浸水197戸、衣食もほとんど流失、大変困った。」などと刻まれています。

**教訓** 津波は数回、長時間にわたり押し寄せます。必ずしも第1波が最大になるとは限らず、2波目や3波目が大きくなることもあるので注意が必要です。すなわち、高い所へ避難した後は、半日もしくは津波警報が解除されるまで、自らハ物を取りに渡ったり、海の様子を見に行くなどの行為は禁物です。

# 八幡神社「常夜灯台石」

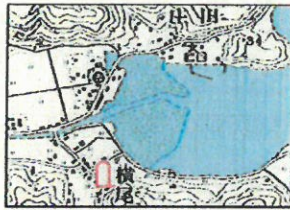
(1854年安政南海地震)

所在地 阿南市椿町浜1 八幡神社鳥居前  
 建立 安政3年3月8日(1854.4.12)



常夜灯

阿南市椿町浜(旧横尾)の八幡神社鳥居前にある2基の「常夜灯台石」に、安政南海地震(1854.12.24)時の津波来襲の様子が残っています。それによると、「安政南海地震の前日に起きた安政南海地震(1854.12.23)に伴う津波が堤防を越え、川筋の奥深くまで侵入した。翌日、午後4時頃の安政南海地震の大揺れが続くなか、午後6時頃に見上げるばかりの大津波が来襲。多くの家屋や田畑に被害を出したものの、老人・子供を素早く避難させたため幸い死者はなかった。」などと刻まれています。



**教訓** 幼児、高齢者、外国人など援護を要する者には、特に早い避難補助ができる体制を整えておくこと。もちろん、事前に家族や地域で避難体制を十分整えておくことが大切です。

# L-7

# 妙法寺「庚申塔」

(1854年安政南海地震)

所在地 那賀郡那賀町谷内下傍94 妙法寺境内  
 建立 安政5年(1858)

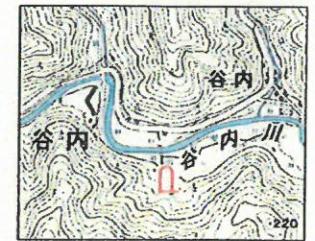


前面



側面

那賀町(旧相生町)谷内の妙法寺は、那賀川中流の支流谷内川の山合にあります。現存する「庚申塔」は安政南海地震(1854.12.24)により損壊したため、1858年に再建されたものです。海岸から20kmも離れた山間部で石塔が損壊したということは、この地は震度5以上の揺れに襲われたことを意味します。



**教訓** 次の南海地震の揺れの大きさは、この安政南海地震と同じかそれ以上といわれています。沿岸遠ばかりでなく、中山間地の住民も、地震対策を怠らないことが大切です。

# L-8

# 志和岐「震災碑」

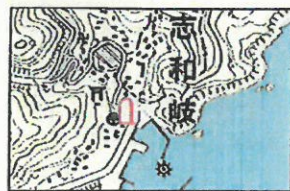
(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡美波町志和岐字田井ヶ浦89 志和岐公民館前  
 建立 文久2年(1862)9月



震災碑

美波町(旧山岐町)の志和岐公民館の前に、安政南海地震(1854.12.24)の津波による被害を前に刻んだ碑が建っています。そこには、「嘉永7年11月4日(1854.12.23)午前10時頃安政南海地震があり、大津波が押し寄せ、住人は家財を寺や高台に運んだ。翌5日(1854.12.24)午後4時頃に安政南海地震の後、すぐに津波が押し寄せ、海辺の家は残らず消失したが、犠牲者はなかった。大地震の後には津波が来るので、油断しないようにと子孫に伝えよ。」などと刻まれています。

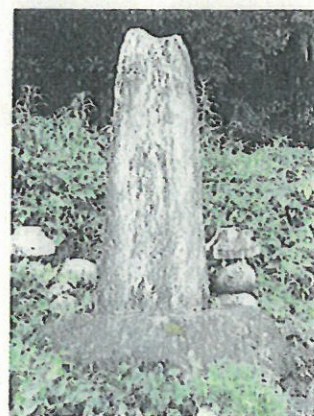


**教訓** 津波による浸水が予測される地域では、家財の流失対策も考慮する一方、早急に津波からの避難を図ることを、子孫に伝えなければなりません。

# 東由岐「康暦碑」

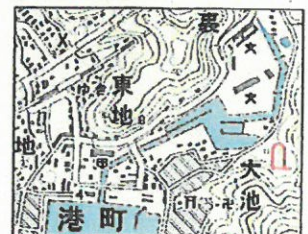
(1361年正平南海地震) **日本最古の津波碑**

所在地 海部郡美波町東由岐大池イヤ谷  
 建立 康暦2年(1380)11月



康暦碑

美波町(旧由岐町)東由岐大池の南岸の小さな谷に、わが国最古の津波碑といわれる正平16年6月24日(1361.8.3)に発生した南海地震津波の供養碑「康暦碑」があります。『太平記』にも「阿波の宮(由岐)の旗を襲った津波」として記されており、この碑は、20年後の康暦2年(1380)に建立されたものです。

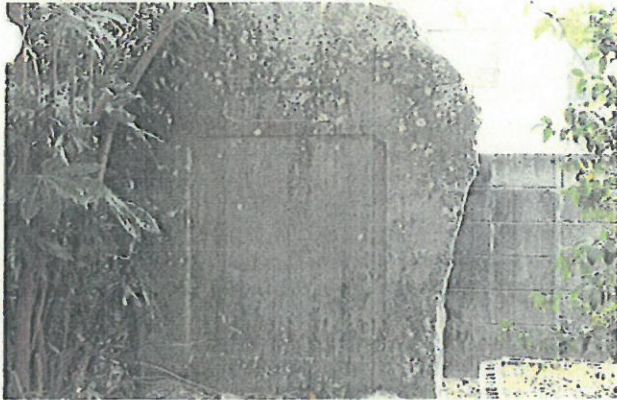


**教訓** わが国最古の津波の供養碑が徳島に現存しています。災害文化を継承し、「私たちは、二度と津波災害に遭わないよう心がける」という誓いの碑とならなければなりません。

## 東由岐浦「修堤碑」

(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡美波町東由岐大池101-1 東由岐公民館前  
 建立 大正2年(1913)9月



修堤碑

美波町(旧由岐町)東由岐公民館の前に、大正元(1912)年9月22日の台風で決壊した堤防の修復記念碑にも、安政南海地震(1854.12.24)時の津波の記述が見られます。「安政南海地震時には、長門寺の下まで津波が来襲、堤防は破壊され、村内の家屋が140戸流出、残ったのはわずか10余戸、多数の死者が出た。」などと刻まれています。



**教訓** 現在では高い堤防に守られていますが、大地震時には揺れや液状化、津波などで破壊されることもあります。ハード面の対策だけでなく、避難などのソフト面の対策も合わせて考え、被害軽減に努めなければなりません。

## 西の地「貞治の碑」

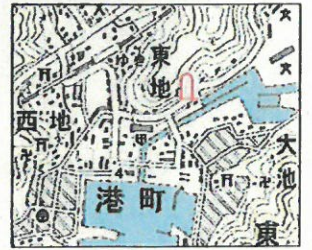
(1361年正平南海地震)

所在地 海部郡美波町西の地宇東地 子安地藏堂内  
 建立 貞治6年6月24日(1367.7.29)



貞治の碑

美波町(旧由岐町)西の地宇東地の道路の奥に、正平南海地震(1361.8.3)の犠牲者供養のために地蔵尊を刻んだ貞治6年(1367)の銘が入った石(「貞治の碑」と呼ばれる)が、子安地藏堂内にあります。1854年の安政南海地震の際に、浜の堤防のなかで異様な光を放つこの石を見た地元の情報屋人たちがここに移しお祀りしたと伝えられています。

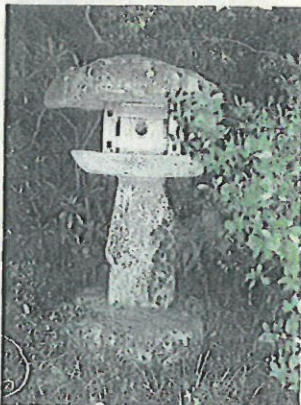


**教訓** 地震・津波の犠牲者を追悼するため、地蔵尊を刻み残した先人の想いを理解し、この地が再び被害に遭わないよう地域住民各自が努力しなくてはなりません。

## 木岐王子神社「石灯籠」

(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡美波町木岐南白浜191-2 王子神社  
 建立 不詳



石灯籠

美波町(旧由岐町)木岐地区の南白浜の王子神社隣の堤防沿いの木立に祀られた石灯籠の周囲に、安政南海地震(1854.12.24)の様子が刻まれています。それには、「午後4時の大地震のあと、1時間内に大津波が3度押し寄せ、高さ約12mを超える津波で家屋もこの神社も流失した。」などと刻まれています。



**教訓** 津波は何度も押し引きを繰り返します。このような巨大津波では、全ての家屋は破壊され、消失します。そのうえ、短い生命を奪わないためにも、早く近くの高いところへ避難することを心がけなければなりません。

## 旧旭町南海地震「記念碑」

(1946年昭和南海地震)

所在地 海部郡牟岐町灘宇大牟岐田 児童公園内  
 建立 昭和24年(1949)10月28日



記念碑

牟岐町灘宇大牟岐田の児童公園内に、昭和南海地震(1946.12.21)の記念碑があります。当初、牟岐町旭町にあったものを、昭和南海地震から50周年記念にあたる平成8年(1996)にこの地に移転しています。碑には、「昭和南海地震後、工費95万円、延べ5,720名、10ヶ月をかけて後世の災厄に備えるための地盤埋立事業を行った。旧名坊小路を旭町と改称した。」などと刻まれています。また、「大地震の直後には、津波が襲う」と警鐘を鳴らしています。



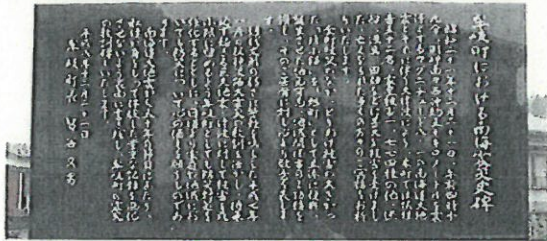
**教訓** 大地震の後は地盤沈下が起き、そこに津波が来襲するため、被害はさらに大きくなります。この地域は、津波到達時間が短く、地盤の揺れが治まり次第、直ちに避難を開始することが必要です。

# 「牟岐町における南海震災史碑」

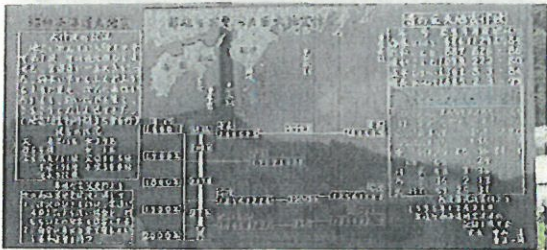
(1946年昭和南海地震)

所在地 海部郡牟岐町灘字大牟岐田 児童公園内  
 建立 平成8年(1996)12月21日

地図は前頁参照



前面



背面

大牟岐田の児童公園内に、昭和南海地震(1946.12.21)から50周年を記念して平成8年(1996)に「牟岐町における南海震災史碑」が建立されています。前面には、昭和南海地震・津波の再調査の結果をもとに「牟岐町では犠牲者52名、家屋被害1,774棟などの被害を受けた。阪神淡路大震災(1995.1.17)の教訓を活かし、将来必ず起きる南海地震に対して日頃から備えよ。」などと刻まれています。背面には、過去に牟岐を襲った巨大地震の震災史が刻まれています。

**教訓** 国史により、自分のまちを襲った過去の南海地震の被災の実態を住民各自が知りうるよう工夫されています。次の南海地震に備えるための心構えができるよう考慮されたこうした碑は、防災教育・防災学習にも有効です。

徳島県の地震・津波碑 P26

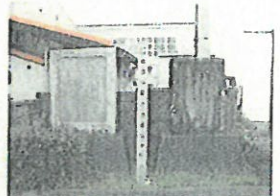
# 牟岐「大震潮記念碑」

(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡牟岐町中村字本村14 牟岐小学校前  
 建立 昭和6年(1931)5月1日



大震潮記念碑



安政・昭和南海地震碑と潮位標識



牟岐小学校前に、安政南海地震と昭和南海地震の碑が並んで建っています。2つの碑の間には、昭和南海地震の最高潮位4.52mを示す新しい標識があり、住民に津波への注意を促しています。安政南海地震(1854.12.24)の碑は、度重なる地震の記録を留めようと、昭和6年(1931)に建てられています。「安政東海地震(1854.12.23)が午前8時に発生、午前10時に潮の急激な変動が見られたため人々は恐れて山へ避難し一夜を過ごした。翌5日(1854.12.25)の午後4時に安政南海地震が発生、約10mの津波が3度押し寄せ、家屋640戸が流失、39名が溺死した。天変地異の前兆があれば、法断せずに避難することが大切である。」などと刻まれています。また、幻の津波といわれる永正9年(1512)の津波来襲日や、慶長・宝永・安政各地震の発祥も刻まれています。

**教訓** 南海地震はおよそ100年周期で繰り返して起きています。安政の津波で牟岐町では39名が溺死しました。天変地異の前兆があれば、法断せずにいつても避難できる行動を覚えておくことが大切です。

徳島県の地震・津波碑 P27

# 「牟岐町南海震災記念碑」

(1946年昭和南海地震)

所在地 海部郡牟岐町中村字本村14 牟岐小学校前  
 建立 昭和53年(1978)12月21日



牟岐町南海震災記念碑



安政・昭和南海地震碑と潮位石柱



牟岐小学校前の安政南海地震碑の横に、昭和南海地震碑があります。地震から30周年にあたる昭和53年(1978)12月21日に建立されています。この碑には、「昭和21年(1946)12月21日午前4時19分32秒に発生した南海地震とそれに伴う津波は、牟岐町にとって92年前の安政の津波以来の災害となり、数億の痛手から立ち直ろうとしていた町民を、さらにうちのめす結果となった。このため54人の人命が奪われるなどの大被害を受けた。瞬時にして荒廃の町と化したその痛ましい記録を刻み、犠牲になられた人たちの御霊を慰め、町民の後世への教訓とする。」などと刻まれています。

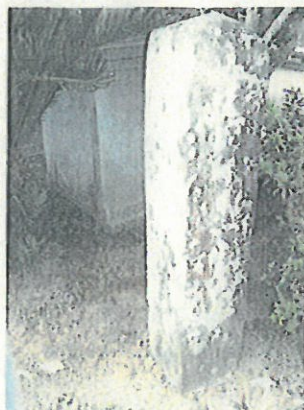
**教訓** 県南部の地域では、地震の揺れによる被害よりも津波による被害が多く、津波が来る前に素早く屋外に脱出し、避難行動をとることが大切です。そのためには、家具の転倒による怪我や下敷きにならないなどの事前対策が必要です。

徳島県の地震・津波碑 P28

# 出羽島観栄寺「石碑」

(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡牟岐町大字牟岐浦字出羽島 観栄寺境内  
 建立 不詳 再建 昭和3年(1928)12月



旧碑



再建碑

牟岐山出羽島の観栄寺階段を上りきった境内左の植え込みの中に旧碑が、本堂正面に向かい合う形で再建碑が建っています。碑には、「安政東海地震(1854.12.23)当日の午前8時にこの島でも6m程度潮が上下し、翌日(1854.12.24)、午後4時の安政南海地震発生時にも同程度の津波が来たが、島民は前日より山の上に避難して無事であった。」などと刻まれています。



**教訓** 前日の安政東海地震による潮の急激な変動に気づき山へ避難していたため、翌日の南海地震の津波から助かった例が各地で見られます。津波に対しては、早く近所の高いところへ避難し、半日程度は下山しないことが大切です。

徳島県の地震・津波碑 P29

## 浅川「南海津浪死没者 供養塔」

(1946年昭和南海地震)

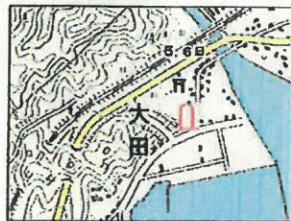
所在地 海部郡海陽町浅川字大田  
 建立 昭和42年(1967)12月21日



南海津浪死没者 供養塔

昭和南海地震(1946.12.21)時の津波による犠牲者の名前を刻んだ供養塔が浅川の弥勒菩薩の像のある小高い丘の一面に昭和42年、地元の「みろく会」によって建てられています。

**教訓** 地震・津波などの自然災害により犠牲者を出した地域にとっては、いっまでも不幸な記憶を忘れることはできません。津波の被害を受ける前年の頃こそ、過去の災害の記憶を風化させてはなりません。

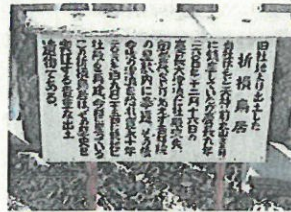


徳島県の地図・津波碑 P30

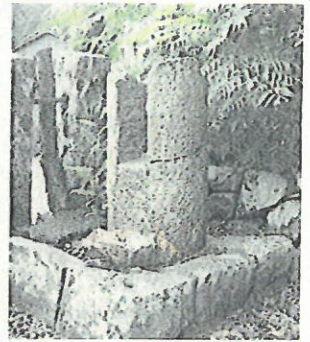
## 浅川天神社「折損鳥居」

(1605年慶長南海地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字大田34 天神社境内  
 移転 不祥



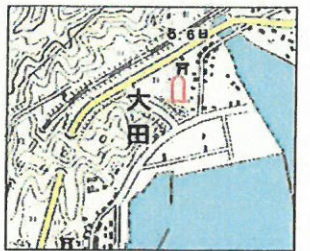
説明板



折損鳥居



天神社



海陽町浅川字大田の天神社の境内に、旧社地より出土した折損鳥居の一部が置かれています。説明板には、「天神社は、もと天神前丸山(古天神)にあったが、慶長南海地震(1605.2.3)時の大津波により流失、御霊代と一時古祥院の屋敷内に奉遷後、寛永10年(1636)に現地に社殿を再建した。」と書かれています。慶長地震津波の遺物は他にみられない貴重な史料です。

**教訓** この地は、慶長時代以降も宝永、安永、昭和の東海地震による津波被害を受けてきました。この遺物を、「今後、これ以上、津波被害を受けさせない地域とする」という「住民の誓いのしるし」にすべき実物です。

徳島県の地図・津波碑 P31

## 浅川天神社「石碑」

(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字大田34 天神社境内  
 建立 慶応3年(1867)4月 再建 平成6年(1994)11月4日



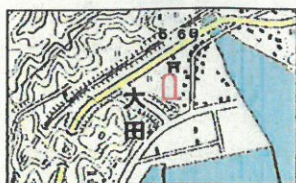
旧碑



再建碑

浅川大田の天神社境内には、碑文が読めなくなった安政南海地震(1854.12.24)の碑と1文がわかるように再建した2つの碑があります。「安政南海地震の前日(1854.12.23)、安政東海地震が起き、その日の午前10時頃、浅川では海水が道路に溢れ、住民は山へ避難した。翌日(1854.12.24)、午後4時大地震、約9mの津波により、天神、大蔵、御崎の3神社、江音、千光、東泉の3寺以外は人家全て流失した。幸い村内には怪我人は出なかった。」などと刻まれています。

**教訓** 神社や寺以外は全て消失したものの、山へ避難した人々は津波が収まるまで下山しなかったため、この地では犠牲者が出なかったことを教訓として忘れてはなりません。碑文を磨き、現代に伝承することも大切です。

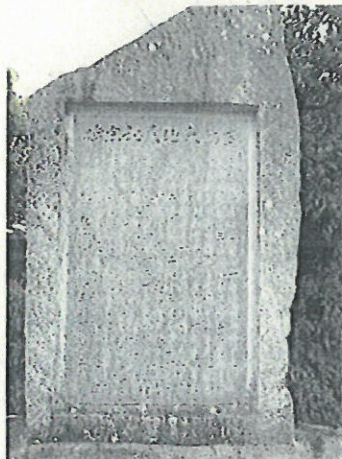


徳島県の地図・津波碑 P32

## 浅川天神社前「南海大地震記念碑」

(1946年昭和南海地震)

所在地 海陽町浅川字大田34 天神社境内  
 建立 昭和31年(1956)12月



南海大地震記念碑



天神社



昭和南海地震(1946.12.21)で徳島県内最大の犠牲者を出した浅川天神社前の広場に、10周年記念に建立された「南海大地震記念碑」があります。「21日午前4時19分に大地震、震後10分余りで津波が来襲、第1波の高さ約2.7m、第2波約3.6m、第3波約3.3mを記録した。死者85名、傷者80名、家流失1857戸、全壊161戸、半壊169戸に及んだ。その他、船舶漁具家財および農作物も多数流失した。終戦後の物資不足の時位に多方面から援助を受けたことへに感謝する。」などと刻まれています。

**教訓** 天神社には、慶長、宝永、安永、昭和の地震に関する記念碑があります。これほど多くの碑が建てられている浅川の人達は、次の南海地震時には犠牲者をなくすこと、それが先人に対する義務と考えなければなりません。

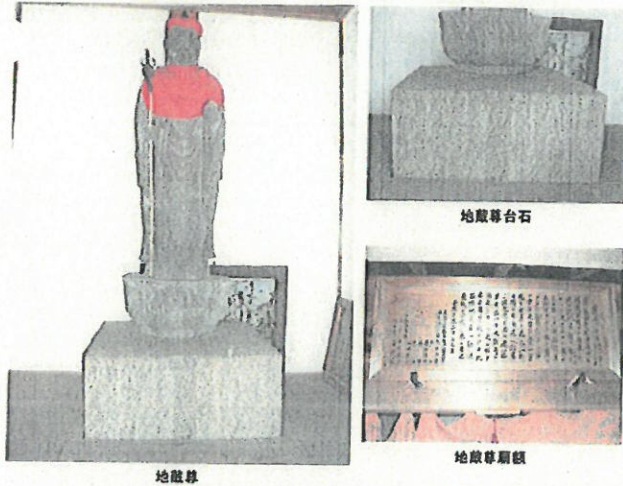
徳島県の地図・津波碑 P33

## 浅川観音堂「地藏尊台石」

(1707年宝永地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字イナ 観音堂境内地藏堂  
 建立 正徳2年(1712)7月

地図は次頁参照



地藏尊

地藏尊台石

地藏尊願額

海陽町浅川字イナの浅川湾を見下ろす小高い丘の観音堂地藏尊台石に、わが国最大級の東海・東南海・南海地震が同時に起きた宝永地震(1707.10.28)時の津波の様相が刻まれています。それには、「午後2時頃、大地震、その後9mの津波がクラウト板の蓋まで上がり、引き潮により千光寺以外はすべて流失、140余人の犠牲者を出した。」などと刻まれています。今では台石の文字は上半分しか見えず、その銘文を石額に書き示しています。

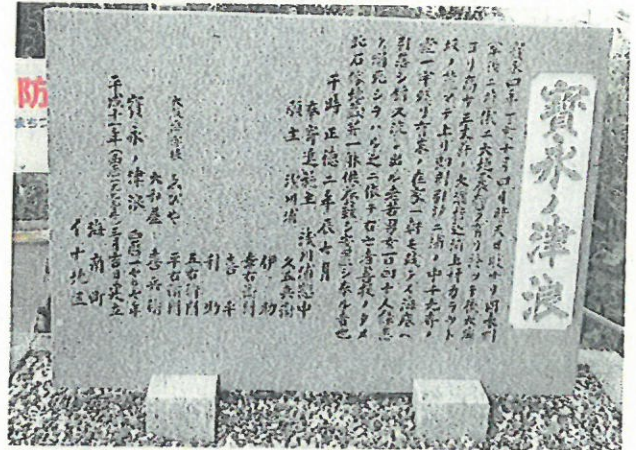
**教訓** この浅川には、慶長津波の天神社島居の遺物、宝永津波のこの集善地蔵尊があり、その後の1854年安政南海、1946年昭和南海地震津波でも大きな被害を受け多くの命が奪われています。この丘に立てば、浅川湾の湾口に津波防波堤が見えます。しかし、津波防波堤だけに頼らず、地震時には家具の転倒を防ぎ、屋外への脱出など避難行動を覚えておくことが大切です。

磐島町の地図・津波碑 P34

## 浅川観音堂「宝永/津浪」

(1707年宝永地震)

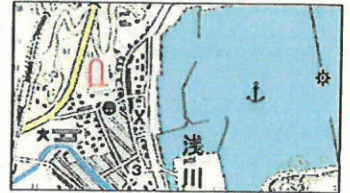
所在地 海部郡海陽町浅川字イナ 観音堂境内  
 建立 平成11年(1999)3月



宝永/津浪

浅川イナの観音堂内にある地藏尊台石の碑文を、より多くの人に知らせるために、平成11年(1999)3月、境内に新しい石碑が建てられました。

**教訓** 住居各自が津波被害対策を考えるためにも、過去の生の資料を提示することは、防災意識の向上に役立ちます。



磐島町の地図・津波碑 P35

## 浅川観音堂石段「津波襲来地点石標」

(1854年安政南海地震、1946年昭和南海地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字イナ 観音堂石段  
 建立 不詳

地図は前頁参照



浅川観音堂石段

安政南海地震津波襲来地点石標

昭和南海地震津波襲来地点石標

浅川の観音堂に至る石段結に、安政南海地震(1854.12.24)時および昭和南海地震(1946.12.21)時それぞれの津波の到達点を示す石標が建てられています。それぞれの石標から、安政の津波は6.4m、昭和の津波は4.1mの高さにもなっています。自分の目線をその位置に合わせ、石段反対側の家の高さ比べて下さい。津波の恐ろしさが実感できるはずですが、昭和の津波は、安政の津波よりもはるかに小さかったことも一目瞭然です。

**教訓** 津波高を示す石標は、地域の防災意識を高める無言の教科書になります。

磐島町の地図・津波碑 P36

## 「震災後50年南海道地震津波史碑」

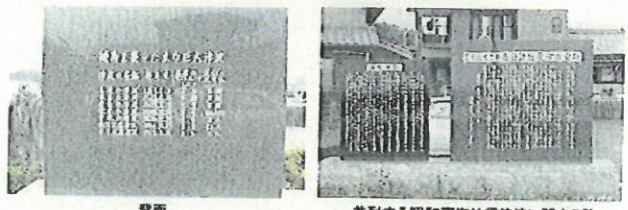
(1946年昭和南海地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字ヨリ東26-4 海南庁舎浅川出張所前広場  
 建立 平成8年(1996)12月21日

地図は次頁参照



震災後50年南海道地震津波史碑



背面

並列する昭和南海地震津波に関する碑

海陽町海南庁舎浅川出張所前広場に、昭和南海地震(1946.12.21)の新しい記念碑が2基並んで建てられています。「震災後50年南海道地震津波史碑」は、当時を回想して85名の犠牲者の冥福を祈念し、碑の背面に繰り返された津波の歴史と先人の教訓が水く語り継がれることを願って、平成8年(1996)12月21日に建てられたものです。

**教訓** この碑に刻まれた「被災の歴史を風化させてはならない」、その歴史を通じて「一人一人の命は地球よりも重い」ことを心に銘じ、日頃から住民各自が高い防災意識を持つべきことをこの碑は教えています。

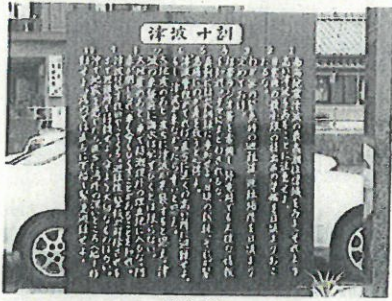
磐島町の地図・津波碑 P37



「津波十訓」

(1946年昭和南海地震)

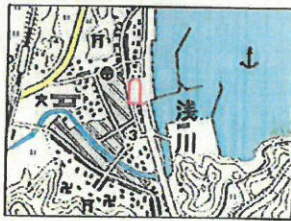
所在地 海部郡海陽町浅川字川ヨリ東26-4 海南庁舎浅川出張所前広場  
 建立 平成8年(1996)12月21日



津波十訓



昭和南海地震津波の最高潮位標識



「震災後50年南海道地震津波史跡」の横に、津波に対する心構え「津波十訓」が刻まれています。それには「地区内に建てられた多くの昭和南海地震津波の最高潮位標識よりも高い津波もある。最小限の持ち出し品の準備、避難路・避難場所を決めておく、津波の前に潮が引くとは限らない、避難は早く近くの高いところへ、船の移動方法」などに関する教訓が述べられています。

教訓 十訓に学び、住居一人ひとりが自分の地域の弱点をよく知り、その地域に合った津波への対応をとることが大切です。

浅川御崎神社「大地震津浪記」

(1707年宝永地震、1854年安政南海地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字川ヨリ西 御崎神社境内  
 建立 明治34年(1901)11月 再建 平成8年(1996)



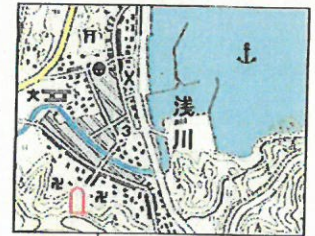
旧碑



再建碑

浅川の御崎神社境内には、千光寺の「大地震津浪記」寫類に記された文章に、宝永地震(1707.10.28)時の死者数185人などを付け加えた石碑が、明治34年(1901)に建てられています。風化が激しく碑文が読み取れないため、平成8年(1996)に復元した再建碑が境内の別の位置に建てられました。

教訓 石碑に刻まれた文字は風化しても、そこに記された教訓は風化させではなりません。新しく読みがわかる形で蘇らせた再建碑から地域の災害史を学ぶことが大切です。



浅川千光寺「大地震津浪記」扁額

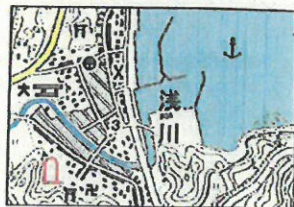
(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡海陽町浅川字川ヨリ西166-3 千光寺本堂内  
 奉納 文久元年(1861)6月



大地震津浪記

浅川の千光寺本堂内に、安政南海地震(1854.12.24)の6年後に奉納された浅川の当時の様子記した「扁額」があります。そこには、「安政南海地震の前日に起きた安政東海地震津波の浅川への影響や住民の行動、当日の津波で浅川では、一部の神社や寺院を除く集落全壊が消失した。津波は6~9mにも這い上がり、観音堂石段25段、高台の上1.2mも浸水した。また、大阪などでは、船に乗って逃げたために多くの死者が出た。」などと記されています。



教訓 約100年後にはまた大地震が起きる。そのため仮住居の用意をする、津波に対し船で逃げてはならないなど多くの教訓が記されています。

旧熱田峠地藏尊「供養塔」

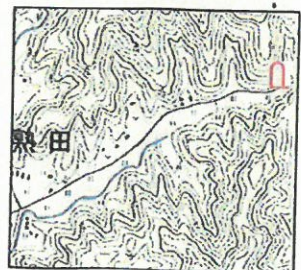
(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡海陽町熱田 熱田峠旧山道  
 建立 不詳



供養塔

山を切り裂いた熱田の新道に沿って、草深い旧道に分け入った道端に、高さ50cm程の地藏尊を刻した石塔があります。もともと、安政南海地震津波(1854.12.24)による大里村の被災状況を後世に伝えるため、人の目に触れやすい所に供養塔を建てられていました。この側面には、「宝永地震(1707.10.28)より安政南海地震まで148年目。安政南海地震の前日の安政東海地震が起きた午前8時頃、潮が町中に流れ込み、当日の午後4時に大地震とともに、約9mの津波が押し入った。住民は山へ逃げ登り、海辺の人家は被災、一面は荒野となった。」などと刻まれています。先人の意思を生かすためにも、石塔を人の目に触れる新道脇などに移し、碑文を示すなどの措置も考えられます。



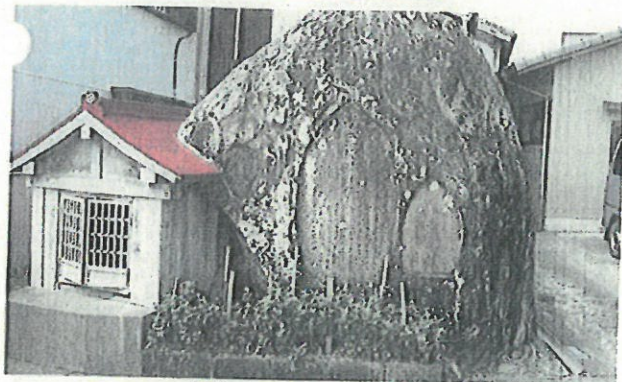
教訓 新道の開通により、誰も目につかない旧道に地震尊は埋もれています。犠牲者の世帯と先人の意志を生かすことを考えなければなりません。

# 大岩「慶長・宝永地震津波碑」

(1605年慶長地震、1707年宝永地震)

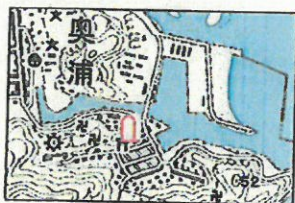
所在地 海部郡海陽町新浦字北町

建立 慶長碑：寛文4年(1664) 宝永碑：不詳



慶長碑(左)および宝永碑(右)大岩の碑

海陽町新浦漁港近くの大岩に、慶長南海地震(1605.2.3)(向って左)と宝永地震(1707.10.28)(同右)の碑文が刻まれています。慶長の碑面には、「南無阿弥陀仏と中央上面に文字が刻まれ、その下に、午後10時に30mの津波が来襲、100余名の犠牲者が出た。」などと刻まれています。一方、宝永の碑面には、「午後2時頃、約3mの津波が3度来襲したが、犠牲者はなかった。」などと刻まれています。この慶長の津波碑は、四国で地震・津波の様子を記された最古の碑です。



**教訓** 地震・津波の様子が記された最古の碑が新浦の集落にあることは、この地域の文化の高さを示すもので、先人の誇りを受け継ぎ、徳島県南地域が、日本一津波被害がない地域となるよう努力すべきです。

# 新浦「海嘯記」

(1854年安政南海地震)

所在地 海部郡海陽町新浦字立岩 海部川旧河道沿い

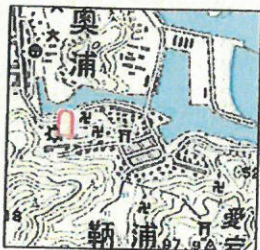
建立 昭和2年(1927)5月1日



海嘯記



津波避難施設(新浦山下地区)



新浦漁港から海部川の旧河道沿いに、安政南海地震(1854.12.24)時の津波の様相を記した「海嘯記」が建てられています。この碑には、「午後4時頃に起きた地震による津波は、多善寺の門前、陸奥まで来た。人々はあわてふためき近くの山々へ逃げた。津波は夜半までに4~5回あり、余震は夜明けまでに30~40回も続いた。津波の高さは、他の地域では6~9mにもなったが、新浦では3~6mであった。建物被害も少なく、けが人もなかった。」などと刻まれています。

**教訓** この深い新浦の集落には、慶長、宝永、安政の津波碑が存在します。過去の津波の実態を知り、現在までの地形や土地利用変化も考えながら、被害を最小化する知恵が必要で、避難場所の少ない山下地区には、現在立派な避難所が造られています。

# 穴喰「南海地震津波最高潮位標識」

(1946年昭和南海地震)

所在地 海部郡海陽町穴喰浦 弁天山登り口

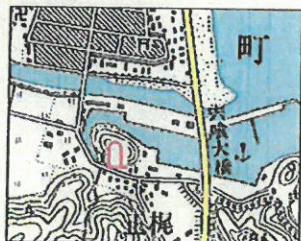
建立 平成8年(1996)9月



南海大地震津波最高潮位標識



古目大師堂

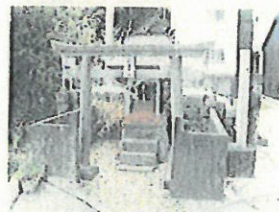


海陽町穴喰は、古文書によれば永正の津波(1512.9.13)、慶長、宝永、安政、昭和の津波で大被害を受けてきたことがわかっています。しかし、石碑や銅像といった形では残されていません。穴喰浦弁天山登り口(古目大師堂の対面)に、昭和南海地震(1946.12.21)の津波最高潮位を示す標識が避難所の看板と並んで建てられています。

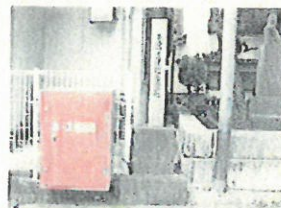
**教訓** 穴喰における安政南海地震津波の高さなどは、この地の旧家の古文書に残され、昭和南海地震津波よりもさらに大きかったことがわかっています。それらを次の南海地震津波の防災対策に生かすことが望まれます。

# 南海地震津波「最高潮位標識」

(1946年昭和南海地震)



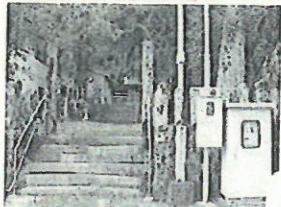
美波町 西由岐 公民館前



美波町 西の地 由岐保育所前



海陽町 浅川 天待社前



海陽町 浅川 御崎神社前



牟岐町 瀬 大牟岐田



牟岐町 蛭子神社前

徳島県南部の地域では、昭和南海地震(1946.12.21)による津波の最高潮位を示す標識(石柱、電柱、壁面の印)が各所で見受けられます。こうした津波高を示す標識は、それを日頃眺めるだけで津波の脅威を無意識に感じ、「防災意識を高める教育の教材書」といえます。





# L-27

**「震災後50年南海道地震津波史跡」**  
(1946年昭和南海地震)

所在地 高知県高岡町湊川字川原3丁目28-4 高南庁舎湊川出張所前広場  
樹立 平成8年(1996)12月21日 地図上表示参照

震災後50年南海道地震津波史跡

高岡町湊川出張所前広場に、昭和南海地震(1946.12.21)の惨劇(1)を永遠に記憶するべく、震災後50年南海道地震津波史跡(石碑)は、当時を偲びし多くの犠牲者の冥福を祈念し、津波の歴史を語り継ぐための歴史を伝えるために建てられました。平成8年(1996)12月21日に建てられました。

備考 この碑に記された「震災の歴史を美化してはならない」との言葉を、一人一人が心に刻み、それを次の世代に伝える責任を負ってほしい。

高岡町立歴史・文化課 2014

**「津波十訓」**  
(1946年昭和南海地震)

所在地 高知県高岡町湊川字川原3丁目28-4 高南庁舎湊川出張所前広場  
樹立 平成8年(1996)12月21日

津波十訓

昭和南海地震津波の最高水位標識

「震災後50年南海道地震津波史跡(石碑)」の隣に、建設に対する心構え「津波十訓」が記されています。これは「地域内に建てられた多くの昭和南海地震津波の最高水位標識より高い津波になる。備忘録の作成や避難の準備、避難経路の確認など、避難の際に備わらなければならない、避難は早くて速く内蔵いゝこと、避難の際に備わらなければならない」を意味しています。

備考 十訓には、住民一人一人が自分の命を守るための知識を伝え、その知識に基いた避難への対応を促すことが目的です。

高岡町立歴史・文化課 2014

# L-28

**兵庫「南海地震津波最高水位標識」**  
(1946年昭和南海地震)

所在地 高知県高岡町尖地 弁天山登り口  
樹立 平成8年(1996)9月

南海地震津波最高水位標識

弁天山登山道

高岡町弁天山は、古くからよび名正の弁天山(1512.9.13)、慶長、宝永、寛政、昭和の歴史的な大規模な災害に巻き込まれてきました。しかし、災害準備が十分でない地域があります。高岡町弁天山登山道(弁天山登山道の対面)に、昭和南海地震(1946.12.21)津波最高水位を示す標識を設置する計画を立てられています。

備考 山頂には防災備忘録の設置予定です。この防災備忘録の設置に賛同し、昭和南海地震(1946.12.21)による津波の最高水位を示す標識(石碑)を建てたい方は、高岡町歴史・文化課に連絡をお願いします。

高岡町立歴史・文化課 2014

**南海地震津波「最高水位標識」**  
(1946年昭和南海地震)

高岡町 西谷町 公民館前

高岡町 西の地 自衛隊事務所

高岡町 湊川 天徳社前

高岡町 湊川 御嶽神社前

高岡町 宮 天徳寺前

高岡町 梶子神社前

高岡町立歴史・文化課 2014